

内容評価基準（41 項目）

※「共通評価基準評価対象Ⅲ 適切な養育・支援の実施」の付加項目

A-1 子ども本位の養育・支援

		第三者評価結果
A-1-(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		
A①	A-1-(1)-① 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	b
<コメント> ・職員が日々の養育・支援の内容について振り返り、相談する体制が出来ていないとのことであったので、b評価とした。		
A②	A-1-(1)-② 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a
<コメント> ・職員会議録、処遇会議録、ケース記録等で適切に事実を伝えようと努め、事実を伝えた後の適切なフォローが行われていることが確認できた。アルバムも丁寧に作っており、好感が持てたことから、a評価とした。		
A-1-(2) 権利についての説明		
A③	A-1-(2)-① 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b
<コメント> ・子どもの権利についての研修に参加し、年に1回は園内研修で学習していることを、ヒアリング・出張復命書で確認できた。 ・全体の場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明してきているが、今年度は未実施とのことだったので、b評価とした。		
A-1-(3) 他者の尊重		
A④	A-1-(3)-① 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるようしている。	b
<コメント> ・子ども間でトラブルが生じた場合は、子ども同士で関係が修復できるよう支援している。 ・おやつ作りや農業体験、子ども会行事への参加など、子どもが協働して行う場面を設定し、助け合い、協力し合うよう支援している。 ・勤務時間内に職員と子どもが個別的にふれあう時間を確保することは困難とのこと、勤務時間外で行っている。加えて、子どもたちが年下の子どもや障害のある子どもなど、弱		

<p>い立場にある仲間に対して思いやりの心を持って接するように支援することについては、ヒアリングにて「支援しているつもりであるが困難も感じる」とのことであり、一層の努力が求められると判断し、b評価とした。</p>		
<p>A-1-(4) 被措置児童等虐待対応</p>		
A⑤	<p>A-1-(4)-① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設長自ら、就業規則や被措置児童等虐待防止ガイドライン（山口県）などで具体例を示し、研修を企画・参加していることをヒアリングで確認した。 ・規程等への体罰等の禁止の明記、被措置児童等への不適切対応があった場合の体制整備が出来ているので、a評価とした。 		
A⑥	<p>A-1-(4)-② 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。</p>	c
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・不適切なかかわりがあった場合の具体的な対応方法の確立が、就業規則等で出来ていることを確認した。 ・不適切なかかわりの防止の徹底については、会議等で日常での具体的な例などが取り上げられていることをヒアリングにて確認したが、検討し方針を出すまでに至っていないため、c評価とした。 		
A⑦	<p>A-1-(4)-③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・被措置児童虐待防止ガイドライン（山口県）、危機対応マニュアル、権利ノートにて、届出・通告に対して誠実に対応するための体制整備や、子どもが自ら訴えることが出来るように資料配布・説明が出来ていることが確認できたので、a評価とした。 		
<p>A-1-(5) 思想や信教の自由の保障</p>		
A⑧	<p>A-1-(5)-① 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングにて、子どもの思想・信教の自由について配慮出来ていると判断し、a評価とした。 		
<p>A-1-(6) 子どもの意向や主体性への配慮</p>		
A⑨	<p>A-1-(6)-① 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。</p>	c
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設見学の希望があれば、積極的に施設全体で受け入れている。 ・子どもの分離体験に関しては、配慮の具体性に欠けている。分離体験からの回復に関する具体的な取組や、入所の相談から施設での生活が始まるまでの、子どもや保護者等への対 		

<p>応についての手順の定期的な見直しが出来ていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングにおいて職員の熱意は感じられたが、組織的な取組と確認ができなかったことから、c 評価とした。 		
A⑩	A-1-(6)-② 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会などを中心に行われており、ヒアリングと自治会記録にて、職員と子どもの話し合いにより生活改善の取組、生活日課や生活プログラムの策定等が出来ていると判断したので、a 評価とした。 		
A-1-(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活		
A⑪	A-1-(7)-① 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活のリズムの基本的な部分は職員が作成しているが、ゲームやスマートフォンなどの使用については、各ホームで子どもが主体的にルールを作成し生活している。スポーツ少年団へも参加している。これらのことをヒアリングや見学において確認し、子どもの主体性、自律性を尊重した日常生活が出来ていると判断したので、a 評価とした。 		
A⑫	A-1-(7)-② 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理については、大人と一緒に小遣い帳を付けていることを小遣い帳とヒアリングで確認した。児童手当等の、子どもの目的に合わせた適切な使用や貯蓄も実施出来ている。 ・大人と一緒に買い物に行く機会があまり持てず、金銭感覚が十分身についていない。また、リービングケアについての取組が不十分であることから b 評価とした。 		
A-1-(8) 継続性とアフターケア		
A⑬	A-1-(8)-① 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	c
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども本人、保護者への家庭復帰相談の実施は、ケース記録で確認できた。 ・子どもの家庭復帰にあたっての復帰後の生活の検討や子ども、家族の状況把握、支援方法など関係機関との役割分担は、ヒアリングにおいて職員の子どもに対する思いは聞けたが、家庭復帰後の子どもや保護者等の状況について記録が確認できず、マニュアルも無く、担当職員の裁量に委ねている状況であるため、c 評価とした。 		
A⑭	A-1-(8)-② できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	a

<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学2年生くらいから将来について話し合い、本人の思いを大切に支援している。 ・ 中退等により高校在籍が困難な子どもに対しては、担当職員が子どもの思いを確認しながら、最善の方法を考えるようにしている。 <p>以上をケース記録とヒアリングで確認できたので、a評価とした。</p>		
A⑮	A-1-(8)-③ 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	c
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 退園後、本人からの連絡だけでなく、就労先などからの連絡やトラブル発生の連絡の対応は、出来ている。 ・ 退所後の生活に向けてのリービングケア、退園後の相談担当者、退園後の状況把握及び記録の整理等に関しては、職員の裁量で支援していることが多く、園として取り組みにまで至っていないので、c評価とした。 		

A-2 養育・支援の質の確保

A-2-(1) 養育・支援の基本		
A⑯	A-2-(1)-① 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホーム見学、自立支援計画、利用者アンケート、職員や子どもたちからのヒアリング等で子どもを理解しようと努力し、子どもが表出する感情や言動を受け止めて支援していると判断できたので、a評価とした。 		
A⑰	A-2-(1)-② 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ少年団への参加や公文学習などに取り組んでいる。 ・ 子どもと職員の話し合いのもと、子どもの基本的欲求に対して柔軟に対応している。 ・ 施設長も、衣食住をきちんとすることを常に助言している。 ・ 食事のアレンジや食事の温度にも気配りをしている。 ・ 個別の外出の機会などに乏しく、触れ合う時間確保が課題である。 <p>以上のことから、b評価とした。</p>		
A⑱	A-2-(1)-③ 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝の時間帯などで必要以上に手伝って学校へ送り出してしまうこともあるが、言葉使いについて指導し、大きな声を出さないなど近所迷惑にならないように、社会に出て困らない 		

<p>ように支援している。又、幼児のトイレトレーニングや、小学生へ洗濯の仕方を教えるなど、年齢に応じたことが出来るよう支援していることを、ヒアリングで確認した。以上のことから、a 評価とした。</p>		
A⑱	A-2-(1)-④ 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の子どもステーションへの登録、公園や図書館で絵本を読む、山陽小野田市での泊りがけ農業体験、作文ボランティアや公文ボランティアなど、地域資源を活用しての発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。これらを行事企画書・ボランティア申込書・公文教室日報・ヒアリングで確認したので、a 評価とした。 		
A⑲	A-2-(1)-⑤ 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームの見学とヒアリングにて「基本的な生活習慣が身につくようにするにはどういう風にしたら良いか、絵に描いて掲示する」などの取組を確認し、施設生活・社会生活の規範等守るべきルールや知識などを子どもに理解できるように伝え、習得出来るように支援している。 ・職員が普段から振る舞いや態度で子どもの模範となることについては、参観日や保育参観はしているが、机上の整理整頓など、職員が模範を示す努力が必要であること、社会的ルールを習得する機会の設定は、ヒアリングにて「地域の祭りには参加しているが子ども会には加入していないなど、まだ出来ることがある」とのことであった。 <p>以上により、b 評価とした。</p>		
A-2-(2) 食生活		
A⑳	A-2-(2)-① 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事が出来るよう工夫している。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・正月・盆料理、誕生日には、好きなメニューを盛り込み楽しい食事になるように、献立会議で栄養士と話し合い工夫をしていることを、給食日誌・ヒアリングで確認したので、a 評価とした。 		
A㉑	A-2-(2)-② 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あなたのすききらいアンケート」を年1回行い、栄養士を中心に取り組んでいる。又、アレルギーのある児童には栄養士・看護師が連携して対応している。 <p>よって、子どもの嗜好、発育に必要な栄養摂取及び個々の健康状態に配慮のこもった食事の提供が出来ていると判断し、a 評価とした。</p>		
A㉒	A-2-(2)-③ 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	a

<コメント>		
<p>・施設長の「温かい食べ物は温めて提供する」という方針の下、各ホームにキッチンがあり、調理体験を個別に行っている。栄養士・看護師とも連携が取れており、職員の爪チェックや、冷蔵庫の中の衛生チェックが毎週行われている。</p> <p>これらを、調理体験日誌・ヒアリングにて確認し、子どもの発達段階に応じた食習慣の習得や食育の推進が出来ていると判断し、a評価とした。</p>		
A-2-(3) 衣生活		
A②④	A-2-(3)-① 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
<コメント>		
<p>・「吉敷愛児園 養育の標準的な実施方法について」にて明示され、職員は声掛けをしている。しかし、衣類の整理が出来ていなかったり、靴の汚れがあったりすることもある。又、小学6年生までは職員が衣類を片付けている。</p> <p>よって、衣替えや衣類の整理、保管などの衣習慣の習得が十分に出来ていないので、b評価とした。</p>		
A-2-(4) 住生活		
A②⑤	A-2-(4)-① 居室等施設全体がきれいに整美されている。	a
<コメント>		
<p>・ホームの見学とヒアリングから、園内がきれいに整美されており、温かみのある家庭的な雰囲気づくりや、子どもの年齢に応じて設備が使いやすいような配慮等が出来ていると判断し、a評価とした。</p>		
A②⑥	A-2-(4)-② 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	a
<コメント>		
<p>・中高生は出来るだけ個室にして、一人の空間を確保している。</p> <p>・見学・ヒアリングにおいて、小規模グループでの養育、子どもが安心していられる場所になるような配慮等が出来ていると判断し、a評価とした。</p>		
A-2-(5) 健康と安全		
A②⑦	A-2-(5)-① 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	b
<コメント>		
<p>・ヒアリングにて「日常的に職員が手伝えることと、子ども自らが行うことを考えながら支援しているが、不十分に感じることもある」とのことだった。また、女子児童の健康状態の的確な把握については、男性職員から女子に対しては、対応困難なこともあるとのことであった。</p> <p>以上のことから、b評価とした。</p>		
A②⑧	A-2-(5)-② 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に	a

	対応している。	
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師を中心に、エピペン講習を実施したり、「看護師からのおたより」などを配布したりしている。これらやケース記録により、子どもの健康状態や発育・発達状況を把握した定期的な健康管理、医療機関との連携、服薬管理等が出来ていると判断し、a評価とした。 		
A-2-(6) 性に関する教育		
A 29	A-2-(6)-① 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・性教育担当者を設けて取り組んでいる。 ・性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達段階に応じた「カリキュラム」について、組み方の工夫、見直しを要するため、b評価とした。 		
A-2-(7) 自己領域の確保		
A 30	A-2-(7)-① でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他の境界線は無いが、自分のスペースを意識するように声掛けをしている。 ・見学・ヒアリングにより、紛失防止のための片づけ方の指導、個人所有物での子どもの好みの尊重、子どもに配慮した所有物が分かる工夫等が実施出来ていると判断し、a評価とした。 		
A 31	A-2-(7)-② 成長の記録（アルバム等）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルバムを確認したところ、良く整理されているので、a評価とした。 		
A-2-(8) 行動上の問題及び問題状況への対応		
A 32	A-2-(8)-① 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・性的問題に関してはすぐに対応している。 ・暴力問題への対応は危機管理対応マニュアルがあるが、見直しが求められるため、b評価とした。 		
A 33	A-2-(8)-② 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心安全ネットワークがあり、危機管理対応マニュアルにより取り組んでいる。 ・子どもの言動に注意していくとともに、危機管理対応マニュアルの見直しが求められるため、b評価とした。 		
A 34	A-2-(8)-③ 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取り	a

	の可能性がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「強引な引き取り対応マニュアル」がある。 ・ヒアリングにおいて、対応の周知徹底、児童相談所や警察との連携により子どもの安全への配慮が実践出来ていると判断し、a評価とした。 		
A-2-(9) 心理的ケア		
A 35	A-2-(9)-① 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	c
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・常勤の心理担当職員が退職して、現在募集中とのこと。よって心理的な直接支援を受ける体制が整っていない。職員間での連携も課題となっていることから、c評価とした。 		
A-2-(10) 学習・進学支援、進路支援等		
A 36	A-2-(10)-① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習時間を確保し、公文学習で基礎学力が付くように支援していることが、公文関係の書類とヒアリングにおいて確認できたので、a評価とした。 		
A 37	A-2-(10)-② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・奨学金等の情報提供、進路決定後のフォローアップ、高校中退児に対して予算を組んで社会経験が積めるように支援をする、などに努めている。 これらをケース記録とヒアリングにおいて確認できたので、a評価とした。 		
A 38	A-2-(10)-③ 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの自主性を重んじ社会経験の拡大に取り組んでいることが、ヒアリングにおいて確認できた。 ・日常の買い物で「お釣りのないように小銭を使うことなどが出来ない」など、金銭管理についての支援が課題であるため、b評価とした。 		
A-2-(11) 施設と家族との信頼関係づくり		
A 39	A-2-(11)-① 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外出外泊面会許可願・ケース記録・子どもの帰省記録等を確認した。 		

<p>・ヒアリングにて、帰省時の子どもの様子の把握について十分とは言えないため、b評価とした。</p>		
<p>A-2-(12) 親子関係の再構築支援</p>		
A⑩	<p>A-2-(12)-① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。</p>	c
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援計画・ケース記録・子どもの帰省記録を確認した。 ・ファミリーソーシャルワーカーを中心に取り組んでいるが、児童相談所との協議が不十分で連携が図られていないため、c評価とした。 		
<p>A-2-(13) スーパービジョン体制</p>		
A⑪	<p>A-2-(13)-① スーパービジョンの体制を確立し、施設の組織力の向上に取り組んでいる。</p>	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングでは「スーパービジョン体制が確立してない」とのことであったが、自然と相談ができている職員もいることが確認できたので、b評価とした。 		